

電源開発(株)橋本送電所の

行仙宿への寄贈品荷上げと社誌取材対応

◇実施日 平成27年03月11日(水) 晴時々雪時雨

◇参加者 川島 功、沖崎吉信、 2名。

電源開発(株)橋本送電所；下川原秀幸所長、石岡伸晃、大塚良介、鈴木信博、電源開発(株)広報室；原 淳

計7名

この度、電源開発(株)の社誌に橋本送電所が紹介される事になり、地域社会貢献の一環として世界遺産・南奥駆道の整備に関する寄贈品荷上げを社誌で紹介する取材があるので対応協力の連絡がある。

本日は、3月としては過去最強の大寒波が昨日より襲来し、積雪が心配され取材中止(前回中止)の連絡があるかと思ったが・・・。浦向よりR245号線に入ると、雪時雨になり稜線が白くなっている、かなりの積雪を懸念したが路肩にうっすら積雪している程度で路面には積雪がない。

11時15分に登山口に着くと橋本送電所の車が1台(2名)到着しており、寄贈品荷上げの荷造りをされている。程なく下川原所長、広報室の原さん同乗の車(3名)が到着。

所長及び広報室の原氏と挨拶し、原氏に橋本送電所より南奥駆道の整備に関する寄贈品(缶パン・20飲料水各2箱・木炭(6kg)・ガスカートリッジ9本)は、年2回行仙宿に荷上げして寄贈して頂いている。又、近くの送電線鉄塔補修工事後の機器・

残材をヘリで荷降し時等に、小屋の補修資材、道普請用資材のヘリ荷上げの便宜を図って下さり、世界遺産である南奥駆道を踏破される登山者や行者さん達の緊急時に役立っており、我々の保守・維持に多大な貢献をして頂いております。尚、荷上げされた資材で行仙宿補給路すなわち送電鉄塔巡視路の道普請もしている事の紹介と謝辞を述べる。資料として「新宮山彦ぐるーぷの主な歩み」を提供。

所長を含めた4名が寄贈品を背負い子で担ぎ、うっすら積雪した急登の補給路を登り第一ベンチ、第二ベンチで休憩。

荷上げ取材撮影に適した地点は、沖崎氏がアドバイスして撮影されていた。

第二ベンチの尾根からは、今日は雪雲がかかり大台ヶ原山の山並みは望めず、池原ダム湖、笠捨山もかすんで眺望された。



電源開発(株)一行・登山前 第二ベンチ休憩 宿内で食事中

昨年2月にヘリ荷上げして頂いた鉄筋で、5月にガラ場迫の補給路(鉄塔巡視路)の改修した地点を説明し見て頂く。

又、世界遺産登録記念に佐田ノ辻に移植された荘川桜が枯れ(岩盤で根が伸びず)、再度寄贈頂いた小屋下の二代目荘川桜の生育状況を見て頂く。

佐田ノ辻の稜線に出ると、雪混じりの北西の風が強く頬が痛いくらいだ。行仙宿の外気温度は零下4℃、室内0℃であるが風が無いので暖かく感じるが、早速ストーブに火を入れる。寄贈品を前に目録による下川原所長から川島への贈呈式を行い昼食とする。

昼食に当地の名物「さんま寿司」(亀公園・道の駅)を2パック差入れする。(事務所で賞味のデコポン5kgは車に積替え)社誌取材の原氏は、今日中に新潟に赴くとの事から、行仙宿を13時過ぎに下山する必要があるとの事。

慌しい食事になり、自宅から持参した水でお湯を沸かそうとヤカンの蓋を開けると凍っていて水が注げず、結局氷から沸かすことになり又、寒さでガスの火力が落ち、温めのインスタント味噌汁になる。食後にはお湯が沸き、熱いコーヒーは自前に入れて頂く。

へり荷上げのお陰で世界遺産登録調査前に竣工出来た管理棟を案内すると下山時刻になる。

佐田ノ辻で今後のご支援と再会並びに荷上げ劳いの握手で送り、電源開発㈱一行は13時15分下山。



食事・懇談中

参加者記念撮影

佐田ノ辻・下山前

我々は、寄贈品を管理棟に運搬整理、4月より宿泊費値上げに伴う掲示物の張替。行者堂の生シキビは、花瓶に入れた水が凍るため水抜きになるのでシキビは長持ちしない事から、冬季は畑林清子さん寄贈の造花に代える。等の作業を行い14時過ぎに下山した。

尚、取材を掲載した社誌は、4月中旬発行で掲載社誌が一部送付して下さる。

行動タイム

新宮9:30→11:15 登山口11:35→12:00 第一トンチ 12:10→12:25
行仙宿「電源開発㈱」下山・13:15」 14:10→14:40 登山口 14:45→
16:20 新宮。(記 川島)